

「四日市市認知症施策推進計画(素案)」についてのパブリックコメント結果について(報告)

1. 実施時期 令和7年12月22日(月)～令和8年1月22日(木)

2. 意見提出数 提出人数 8人  
提出件数 33件

3. 意見の内容と本市の考え方(ご意見は原文のまま掲載しております)

| 連番 | 該当区分 | 関連頁           | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                        | 意見に対する考え方                                                                                                                                                                                                     |
|----|------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 全体   | -             | 3. 認知症のレベルと共生社会<br>認知症者が社会の中で、一般の方と共に共生することに異議はありませんが、認知の度合いによっては、共生することが出来ない方もおられるでしょう。(個人差がある)<br>*要支援のレベルの方<br>*要介護1～2のレベルの方<br>*世介護3以上のレベルの方<br>等に分けての施策計画が必要ではないでしょうか。                                                                                  | ご指摘のとおり、認知症の進行度合いには個人差がありますが、どのような病体像にあっても、その人の持つ基本的人権が守られ、安心して生活できる社会であることが求められていると考えています。認知症当事者が望む暮らしのあり方は人それぞれであり、介護度や認知症の進行度合いだけでは推し量れないものがあります。よって、計画では、認知症当事者一人一人の声を聞き、その人の想いに沿った取組を重視して進めていきたいと考えています。 |
| 2  | 全体   | -             | 注釈の用語説明がすべて巻末にあって、読んでいく時にページをめくってまた戻るという作業多く、疲れてしまいます。注釈の入れ方など、もっと工夫できませんか。                                                                                                                                                                                  | 注釈を文中に入れた場合、同一ページ内に複数の注釈を追記することとなることから、本文と注釈が混在し、かえって内容が分かりづらくなる可能性が懸念されます。検討の結果、用語集を巻末にまとめさせていただいたところです。                                                                                                     |
| 3  | 全体   | -             | 「今後の取組方針」も字を大きくするなどして強調してほしい。                                                                                                                                                                                                                                | 「今後の取組方針」のタイトルについてもより強調し、見やすい体裁となるよう努めます。                                                                                                                                                                     |
| 4  | 全体   | -             | 字が細かく、読みづらいです。認知症当事者の人にも読んでもらいたくて、しかも認知症当事者の大半が高齢者であることを勘案すると、せめてUDフォントを使っではいかがでしょうか。                                                                                                                                                                        | 読みやすくなるよう、フォントや紙面のレイアウトを工夫いたします。加えて、計画の要点をまとめた概要版を作成し、分かりやすく発信してまいります。                                                                                                                                        |
| 5  | 全体   | -             | 1. 計画の考え方 まだが「ですます体」で、「2. 計画の具体的な展開」から「だ・である体」に語尾が変化することに違和感があります。より親しみやすく、全部「ですます体」で統一してはいかがでしょうか。                                                                                                                                                          | 第1章「計画の考え方」はこれまでの経緯を説明するパート、第2章「計画の具体的な展開」は市として実施事項を強い想いを持って”宣言”するパートとして文体を分けております。                                                                                                                           |
| 6  | 全体   | 目次<br>P34、P38 | 3. 巻末資料の中に「4. 事業一覧」ち「5. 用語集」がぶら下がる形の方がすっきりして見やすいのではないかと思います。好みの問題かもしれませんが、意見を取り上げていただかなくても良いです。ただ、前文に渡って散見される「★」「※」の注釈はもう少し目立つようにした方が見やすいのではないかと思います。注釈のテキストボックスを色塗りしておいて、事業一覧と用語集に現れるものと対になる色にしておくなど、視覚上の工夫があるといいと思います。(カラフルすぎて誌面がうるさくなるのであれば淡いグレーがおすすめです。) | ご意見のとおり、3巻末資料の中見出しとして、事業一覧と用語集を標記します。                                                                                                                                                                         |
| 7  | 第1章  | P2            | 四日市市の介護保険事業計画と高齢者福祉計画は一体的に作成されていることから、「、」ではなく「・」でつなぐのが適切ではないでしょうか。また、「福祉・医療分野の計画」とは具体的には何を指すのでしょうか。新型インフルエンザ等対策行動計画などとも整合を図るように読めてしまいます(実際に整合を図るならこのままの記載でよいです)。障害者計画のあとに「等」を入れた方がよいと思われます。                                                                  | ご意見のとおり、介護保険事業計画と高齢者福祉計画を「・」でつなぎます。「福祉・医療分野の計画」とは、その前の文にある「介護保険事業計画・高齢者福祉計画」「保健医療推進プラン」「障害者計画」といった、福祉・医療に関連する計画全般を包括して示しています。障害者計画の後に「等」を追記するご意見をいただきましたが、文章の流れを考えて、「といった」を追記します。                             |

3. 意見の内容と本市の考え方(ご意見は原文のまま掲載しております)

| 連番 | 該当区分   | 関連頁     | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                      | 意見に対する考え方                                                                                                                                                                                                                        |
|----|--------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8  | 第1章    | P2      | 「「四日市市長寿社会づくり懇話会」において、計画の達成状況の進捗を管理し、」とありますが、何を以て達成したとみなすのか、達成できなかったとみなすのかの目安のようなものの記載が見当たりません。PDCAサイクルのC(チェック)を具体的に記載していただいた方が分かりやすいです。個々の宣言にばら下がる形の行動について目標が具体化(数値化)されていると良いのですが、それも記載がありません。せめて、「事業ごとに進捗管理を行う」のか、「宣言と行動ごとに進捗管理を行う」のかを明記していただくと良いかと思えます。 | KPI(※重要業績評価指標)は宣言ごとの設定を想定していますが、具体事項は「四日市市長寿社会づくり懇話会」にて検討する予定です。KPIはあくまでも認知症施策の効果を評価することが目的であり、最終的には地域の認知症に関するビジョンを達成することが目標であることに留意しながら、検討してまいります。<br>P2「(ウ)計画期間・計画の進捗管理」の段落3行目「～計画の達成状況の進捗を管理し」を、「～計画の達成状況の進捗を宣言ごとに管理し」に変更します。 |
| 9  | 第1章    | -       | 1、計画策定以前の取組を年表形式で掲載する<br>四日市市はこの計画策定以前にも認知症に関して、いろいろな取組を行ってこられたと存じます。<br>その取り組み内容を年表の形で、計画の考え方・計画策定に当たったの前段に、掲載されては如何でしょうか。<br>唐突に「推進計画」ができるのではなく、計画以前のベース(歴史)を踏まえた上での「計画」であることを位置づけられては如何でしょうか？                                                           | ご意見のとおり、本市の認知症施策を振り返ることは、計画策定の経緯をより深くご理解いただくことにつながるかと存じます。本計画では、第1章で計画策定に係る概要を、第2章以降、それぞれの事業について、宣言ごとに整理して記載しております。＜主な関連施策・取組＞の表と併せてご参照ください。                                                                                     |
| 10 | 第1章    | P9      | 4、ステップ四日市の更なる充実を<br>認知症本人並びにその家族(親族)には、とても有難い施設です。職員の皆さんは使命感を持ってよくやって下さいます。どのような予算規模で職員の処遇はどうかよくわかりませんが、持続継続できる施設であるためには、相応の予算措置・処遇が必要だと存じます。さらに充実するよう配慮をお願いしたい。                                                                                           | ステップ四日市が、認知症に係る相談支援の拠点としての役割を果たせるよう、必要な予算の確保に努めてまいります。                                                                                                                                                                           |
| 11 | 第1章    | P4～7    | アンケート調査の中にある「相談者」は誰を指すのか。                                                                                                                                                                                                                                  | 「回答者にとっての相談者」を指すため、家族、医師やケアマネジャー等の専門職、友人等、様々な人を想定しています。                                                                                                                                                                          |
| 12 | 第2章全体  | -       | 「2. 計画の具体的な展開」以降、それ以前にあった図やイラストが少なくなったので、より読みづらい印象になっています。事業や宣言の内容がイメージできるようなイラストや写真などを追加してみたいかでしょうか。                                                                                                                                                      | 本文に使用する囲い枠や吹き出し等のイラストの体裁を整え、読み手に分かりやすい紙面になるよう工夫いたします。                                                                                                                                                                            |
| 13 | 第2章宣言① | P13     | 「企業の経営者や従業員が認知症について学ぶ機会を得られるよう・・・。」<br>講座の拡充が記載されていますが、オンラインや動画視聴による講座は含まれているのかが分かりませんでした。<br>今、研修はオンラインや動画視聴も活用して行われている時代ですから、集合研修のみを意図して記載されているのであれば見直しも行ってもらいたい。                                                                                        | ご指摘のとおり、昨今の講座の開催形式は多様化しており、例えば、複数の拠点を有する企業等においては、遠隔での講座受講のニーズがあることが予想されます。<br>本計画において、啓発に係る講座は対象に応じて柔軟に対応することとしており、依頼主よりオンラインでの受講希望があった際は、柔軟に対応していきたいと考えています。                                                                    |
| 14 | 第2章宣言① | P14     | 「新しい認知症観」の部分は、強調した方が目につくのでよいのでは。                                                                                                                                                                                                                           | 「新しい認知症観」は、市民の皆様特に知っていただきたい重要な内容です。ご意見のとおり、タイトルやレイアウト等の体裁を強調し、より読み手の目に留まるよう工夫いたします。                                                                                                                                              |
| 15 | 第2章宣言① | P17～P18 | 認知症を初期で気づくことが大切だということが大事なので、P17、P18は特に強調。                                                                                                                                                                                                                  | ご指摘のとおり、認知症の早期対応・早期発見は、その人の今後の人生をよりよいものとするためにも、非常に大切です。よって、認知症の早期発見の必要性を説明する図表を追加いたします。                                                                                                                                          |
| 16 | 第2章宣言① | P18     | 認知症カフェの部分もより詳しく紹介。                                                                                                                                                                                                                                         | 認知症カフェは、宣言①②③のすべてに関連する重要な取組と認識しています。本計画においては、特に宣言③の観点でコラムを掲載し、取組を紹介いたします。                                                                                                                                                        |

3. 意見の内容と本市の考え方(ご意見は原文のまま掲載しております)

| 連番 | 該当区分       | 関連頁         | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 意見に対する考え方                                                                                                                           |
|----|------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17 | 第2章<br>宣言① | P11～P13     | 2、計画内容の啓発について<br>計画は出来たものの、四日市市民(企業・商店等を含む)にどの様に周知し、理解、認識を得ることが極めて重要です。<br>共生社会の原点は、計画内容の啓発にあると思います。<br>主として次の団体等が<br>(1)四日市市の各組織内(特に市民センター)<br>*施策推進計画策定後、市の職員対象の研修会を実施する。<br>(2)四日市市内の県会議員並びに市会議員<br>(3)四日市市地区連合自治会への啓発(地域の理解)<br>(4)四日市市内の商工業者への啓発<br>・大手企業・中小企業・金融機関・交通機関・店舗等<br>(5)学校教育における啓発<br>市内の小中高への啓発<br>啓発の資料として「推進計画」そのものを配布することは無理でしょうからA4サイズ1枚裏表に骨子を記載して配布する方法は如何でしょうか？ | ご意見のとおり、計画の推進にあたっては、市民の皆様をはじめ、関係機関や地域団体等へ広く内容の周知が必要と考えています。<br>周知にあたっては、計画の内容をまとめたA3二つ折りの概要版を作成予定です。このような資料も活用しながら、普及啓発に取り組んでまいります。 |
| 18 | 第2章<br>宣言① | P12         | 学生に向けて:啓発(座学)だけではなく、サークルやボランティア活動で参加してもらう機会が増えると理解も深まると考える。養成講座+αの場所が提供できないだろうか…。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ご意見のとおり、体験を伴う学びが、認知症をより実感的に理解することにつながると考えます。認知症当事者等の協力を得ながら、認知症当事者とともに過ごしたり、ともに活動を楽しむ機会を設けていきます。                                    |
| 19 | 第2章<br>宣言① | P13         | 住み慣れた地域(町)での生活には、自治会との連携は不可欠だと感じる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 困った時にご近所同士で支え合える関係性があることは、認知症当事者や家族が安心して暮らすために大切な要素の一つです。計画の推進にあたっては、民生委員をはじめ地域の方々にも計画について情報発信を行い、連携を図ってまいります。                      |
| 20 | 第2章<br>宣言② | -           | 「官民連携」という言葉は一般の市民からすると少し分かりづらい感じがします。一行目「これまで、認知症医官民連携推進事業や…」と始まりますが、この一文に守護がないので誰と誰が連携を行ったのかが分かりにくいのです。四日市市と民間企業との連携と分かるように主語を入れた方が読みやすいと思います。<br>なお、この箇所に関わらず、「現状と課題」全体に主語の抜けが目立ちます。                                                                                                                                                                                                 | 1行目から2行目にかかる文章「これまで、～見守り等に関する協定書の締結等によって」の後に、「本市をはじめとする行政機関と」という文章を追記します。<br>「(ア)現状と課題」の冒頭部分を、「これまで」から「本市では」に変更いたします。               |
| 21 | 第2章<br>宣言② | P19         | 主な関連施策・取組の「認知症官民連携推進事業」も同様に主語がないので解説が分かりにくくなっています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 文頭を、「民間企業や関係機関等と連携し」から、「本市をはじめとする行政機関と、民間企業や関係機関等が連携し」に変更いたします。                                                                     |
| 22 | 第2章<br>宣言② | P21、P35     | 説明文内に「QRコード」という単語が出てきますが、民間企業に登録商標されていますので、「二次元コード(QRコード)」などの単語に言い換えてはいかがでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ご意見のとおり、修正いたします。                                                                                                                    |
| 23 | 第2章<br>宣言② | P24～<br>P25 | 5、地域内の介護施設の支援策を実施頂きたい。<br>介護職員の成り手不足から介護施設が閉鎖されることがマスコミ等で取り上げられていますが、四日市市内の介護施設はどのような状態にあるのでしょうか？ 今後ますます必要度が増してくると思われます。<br>市としてこれらの施設に対して支援援助策は講じられないのでしょうか。                                                                                                                                                                                                                          | 介護人材の確保については、第9次介護保険事業計画・第10次高齢者福祉計画の中で取組を進めており、介護職員定着のための研修を継続・充実するとともに、介護の仕事に興味を持ってもらうため、小中学校のキャリア教育の一環として、出前講座等を行っています。          |
| 24 | 第2章<br>宣言② | P19～<br>P23 | 金融機関や交通機関などにバリアがあるため、啓発行為を進めてほしい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ご意見のような、日常生活及び社会生活を営む基盤となるサービスを提供する事業者と連携し、バリアの解消に努めてまいります。                                                                         |

3. 意見の内容と本市の考え方(ご意見は原文のまま掲載しております)

| 連番 | 該当区分              | 関連頁                 | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 意見に対する考え方                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|-------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25 | 第2章<br>宣言②③       | P23、<br>P26～<br>P28 | 移動できなければ外出できず、社会参加の機会が少なくなる。仕事をしている御家族が安心して送り出せない。地域で今までと変わらず過ごせないのは、何が足りないのか・・・御家族の想いも知りたかった。                                                                                                                                                                                                                                                                     | 宣言①(2)にて、「認知症当事者の声の汲み上げ」について言及していますが、家族についても同様に、日頃家族と身近に接する専門職や家族が集う場等を通じて、家族の声を汲み上げ、今後の施策検討に活かしてまいります。                                                                                                                                                                                 |
| 26 | 第3章<br>宣言③        | P26～<br>P28         | P4～P7のアンケート調査において、認知症当事者の意思決定が「これからも自分らしく、いきいきと暮らしていくために、最も大切だと思うこと」のトップ3には入っていませんが、まずまずの件数の回答があります。これを無視するのではなく、社会参加の文面に溶け込ませる形で、認知症当事者のそれぞれの状態上によって異なる意思決定の支援を行う旨を記載してはいかがでしょうか。                                                                                                                                                                                 | 認知症当事者の意思決定については、P28宣言③(1)(イ)の文頭に「認知症当事者がどのような社会参加や社会的支援を望むのかを、本人とともに考え～」とあるように、本人の意向を尊重し、ともに考えてまいります。                                                                                                                                                                                  |
| 27 | 第3章<br>宣言③        | P26～<br>P30         | 認知症になっても、これまで積み重ねてきた経験などを活かしながら、役割と生きがいを持って自分らしく暮らせるまちづくりを進めます。に賛同します。中でも、(1)認知症当事者の社会参加機会の確保には、関心が強くあります。併せて(2)認知症当事者自らの経験を共有する機会の確保がありますが、これはむしろ、認知症当事者を守る「家族」或いは「施設」の担当者の当事者を認知症と決めつけて、人間としての尊厳をなくしてしまう様な風潮がある様に思われます。又、「家族」「施設」の担当者が当事者と接している中で、疲れてしまって本来の役目が果たせなくなっている場合も多くある様に思われます。ぜひ、当事者だけでなく、周りの人の理解と配慮、ケアのあり方、最後は人間として見送れる様な企画を追加してほしいと願います。ご検討よろしく願います。 | ご意見のように、認知症当事者の尊厳が守られ、その人らしい暮らしを続けられる社会は、まさしく「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の理念に合致するものであり、本市の目指す姿でもあります。その実現に向けて、「認知症になってもできること・やりたいことがある」といった新しい認知症観の普及啓発を広く行うとともに、認知症当事者を支える専門職を対象とした研修等の場で、認知症当事者の想いを積極的に伝え、認知症当事者の想いに寄り添うケアのあり方について、ともに考える機会を設けていくとともに、家族のピアサポートの場である認知症カフェ等の運営支援を行ってまいります。 |
| 28 | 宣言③               | P26～<br>P28         | 「送り出し」という言葉があったが。家族としては、送り出せない。連れて行かないといけない。連れて行かないと、周りに迷惑をかけるという心配がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 家族との意見交換でも同様のご意見をいただきました。地域にどのような場所やしくみがあれば、家族が安心して送り出せるのか、家族の声を聞きながら検討してまいります。                                                                                                                                                                                                         |
| 29 | 宣言③               | P26～<br>P28         | 本人は別かもしれないけど、家族は引いちゃう。社会参加と言いながら、対等ではない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 30 | 宣言③               | P26～<br>P28         | 今のところ参加している認知症カフェに関して、「こうしたい」「ああしたい」という要求はない。認知症カフェで気を遣ってもらっている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 認知症カフェが認知症当事者や家族が参加しやすい場であるよう、引き続き運営支援に取り組んでまいります。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 31 | 宣言③               | P26～<br>P28         | 認知症になって3年くらいになるが、すごく感心している。認知症当事者に対して、国から始まっていると思うが、県・市町村が行き届いた取組をしてくれている。自分が認知症になるまでは施設のことや病気のことなど、全く考えたことがなかった。自分が認知症になって、いろいろ世話になって、認知症当事者に対する施設など、行き届いていると思う。できることなら協力して、そういった人たちを手助けしていけると満足。自分はそういった人になりたい。本当にいつもありがとうございます。周りの人のおかげで、私は今楽しく、そして助かっている。                                                                                                      | ご協力のお申し出をいただき、ありがとうございます。認知症当事者の皆様がやってみたいこと、取組んでみたいことの実現に向けて、活動を推進してまいります。                                                                                                                                                                                                              |
| 32 | 4. 事業一覧<br>5. 用語集 | P34～<br>P40         | 掲載された順に★と※の後ろに数字がついていますが、事業一覧と用語集は五十音順です。4. 事業一覧(五十音順)、5. 用語集(五十音順)などと明記すると親切ではないでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                            | ご意見のとおり、事業一覧及び用語集の見出しの横に、「(五十音順)」と記載します。                                                                                                                                                                                                                                                |
| 33 | その他               | -                   | いつも支えてくださり、ありがとうございます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 温かい言葉をいただき、ありがとうございます。今後も、認知症の人を含む皆が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、相談体制づくりや地域のつながりづくりの推進に取り組んでまいります。                                                                                                                                                                                                |